

令和6年度 自己評価・学校関係者評価

令和7年3月25日

幼保連携型認定こども園 蛭ヶ丘保育園

1 園の教育・保育目標

身近な自然を感じ五感を使って喜んで遊ぶ

健康な心とからだを軸に、体を動かすことに喜びを持ち、友達といることを楽しいと思う

子どもに育てる ~ゆっくり・ほっくり~

乳児・・・よく食べ・よく寝る・よく遊ぶ子

幼児・・・よく見る・よく聞く・よくする子

2 本年度の重点課題(学校評価の具体的な目標や計画)

- 1、明るく健康な子に(頭や身体を使う子)
- 2、身の回りの事物に関心を持つ子に(五感を使って自然と関わる)
- 3、言葉をよく理解して使える子に(お話をしっかり聞く、話す)
- 4、自分で表現できる子に(思いを身体やことばや絵にして伝える)

3 評価項目の達成及び取組状況

A^{よい}—B—C—D^{努力したい} 4段階

評価項目	結果	理由	関係者評価	意見
① 保育の計画性	B	クラスによって差があったり、実際には間際になってしまったりすることもあった。 保育は、計画通りに進まないことも考慮しながら、計画を立てていく必要があると思われる。 職員間の共有とフォローする体制を整えていきたいと思う。	B	・個人の能力やその時の状況等で、計画通りに進むことの方が難しいと思う。 ・ベテランの先生を中心に行事を実施したと思う。

② 保育のあり方子どもへの対応	A	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児は育児担当制。 ・担任は、一人一人の子どもをよく見て、一人一人に合わせたかかわりをするよう努力してくれていた。 ・研修等で園全体のことを捉えることで、様々な子どもの育ちや育ってきた環境、個性等について、多くの視点から観察をすることができた。 ・職員同士のコミュニケーションを深め、より子どもを知ることができるようにするとともに、保育の幅を広げていけるようにしたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任以外の職員等で子どもの様子を共有している。 ・多様性の時代、子どもの個性を大事にしているが、全体をまとめるにあたり難しい場面もあると思う。
--------------------	---	--	---	---

③ 保育教諭としての資質 能力、適正など	A	<ul style="list-style-type: none"> ・経験の浅い職員には、積極的に研修へ参加し様々なことを学び、保育者としての資質はもちろんのこと、人間性を高めて欲しいと願う。 ・幼児課業の増加等、経験のある職員への業務負担が多かったように感じる。 ・職員一人一人が、様々なことを自分のこととして考えながら、発信することを忘れずに、協力し合えるよう、コミュニケーションを深めていきたい。 ・今まで通り報告・連絡・相談・確認を密にしていきたい。 ・危険予知や危機管理に対する意識をきちんと持つようにしていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児担当職員に負担がかかることを軽減するための差配が必要。 ・年齢、経験、環境、性格等、個人差も考慮し、短時間勤務職員と共有し軽減していく。
----------------------------	---	---	---	--

④ 保護者への対応	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が積極的に声をかけることで、担任以外の職員にも話をしてくださる保護者が増えた。 ・担任には伝えにくいことを話してくださる方もいるので園の考えを理解していただくために、多くの保護者の方へ声をかけ話す機会を増やしたいと思う。 ・登降園時間によっては、コミュニケーションがとれない保護者もいたと思うが、よい方向に進んでいけるよう努力をしていきたい。 ・園の方針は守りつつ、子どものことを第一に考えながら、保護者からのご意見も参考に教育・保育を進めていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とのより良い関係性を築いてほしい。 ・自分の子どもが一番大事なのは、いつの時代も変わらない。園からの発信はもちろん、保護者を巻き込んで理解してもらうことが必要だと思う。
--------------	---	--	---	---

<p>⑤ 地域との関わり 地域の自然や</p>	<p>A</p>	<p>・小学生、中学生の体験学習の受入れ、リハビリ病院との交流・ラポーレ駿河太鼓披露等、地域の方とのかわりが持てるよう取り組んできた。 ・幼児組は散歩に出掛けたりに行ったりすることが少なく、見直していきたい。</p>	<p>B</p>	<p>・今後も子どもたちに様々な経験をさせてほしい。 ・散歩に行くことはリスクが多いが学べることも多いと思う。</p>
<p>⑥ 研修と研究</p>	<p>A</p>	<p>・希望の様々な研修会に参加している。そのため、広い分野で学ぶことができたと思う。 ・研修で得た知識や情報を再確認し、共有したり提供したりすることができたので、得た知識や情報を保育に生かしていけるようにしたい。</p>	<p>A</p>	<p>・研修は人としての先生としての成長に資することと思う。 ・豊富な知識を学び視野を広めてほしい。</p>
<p>⑦ 外部アンケート</p>	<p>A</p>	<p>運動会や発表会等では、「年長園児のように、我が子も成長してほしい」「見ていて楽しく嬉しい時間を過ごせた」「我が子の今後の成長が楽しみ」「子どもが、とっても楽しんでいた」「全学年を見ることで、子どもの成長をより感じられる」等の感想をいただいた。 これからも、子ども達にとって何が大切かを第一に、保護者と園とが協力していきたい。</p>	<p>A</p>	<p>・行事は子どもの成長を見る良い機会である。準備や努力は本当に大変だと思うが今後も継続してほしい。 ・保護者の声を見ると、先生方の真摯な取り組みが保護者にも理解されていることがわかる。今後も保護者と職員の良い関係構築に努めてほしい。</p>

本年度の重点課題の総合的な評価結果

・年齢別に、重点課題のねらいを基に教育・保育計画をたてて保育を進めてきた。時代の流れとともに難しいことも多く、地域との関わりは積極的に発信していく必要を感じている。今後もインスタグラムやホームページ等で、より一層情報を伝えるツールとして活用していきたい。

・劇遊びでは、表現する楽しさを感じてくれたようで、年長児から良い影響を受け、どの学年も楽しむことができた。絵本やお話をたのしむ会を通して、遊びの中において言葉で表現することを楽しめる子を育てていきたい。

・季節の自然現象に出会ったり、園外保育で貴重な経験をしたりし、様々な経験することができているが、歩くことに慣れていない子が多いということも頭に入れていきたい。

・職員が共通意識を持つとともに、保育教諭の経験も増やしていきたい。

・姉妹園との交流も子どもや保育教諭にとっても良い学びにつながるため、積極的に行っていきたい。

課題	具体的な取り組み方法
指導計画の編成	<p>様々な経験をさせたいと願うあまり、幼児は特に行事に追われてしまうこともある。</p> <p>子ども達にとって、大切なことは何かを今一度考え、保育の効率性も考えていきたい。また、様々な対応を必要とする子どもたちに、伝えなければいけないこと、伝えたいこと等を全職員で共通理解し、柔軟な対応をしていきたい。</p> <p>保育教諭の資質の向上も視野に入れていく。(研修の充実)</p>
園外保育等の充実	<p>幼児は遠くに出掛けるだけでなく、園の近くで散歩も存分に楽しみたいと思う。</p> <p>乳児は日々の生活を繰り返して行うことで安定を保てるため、あえて園外には行かないが、2歳児後半は計画してもいいかと思う。</p>
満3歳児保育の充実	<p>今後の課題・・・満3歳児(3歳の誕生日を迎えた翌日から入園できる)保育を充実させていきたい。</p>
評価委員からのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のお年寄りが増加しているため、交流を持つなど、地域でできることがあったら協力していきたい。 ・開園時間帯や送迎の時間帯にはばらつきがあり大変かと思うが、保護者との関わり合いがもう少し増えてくると良いと思う。 ・職員が多い中でも様々な行事を進めることは難しいと思うが、全体で協力して実行できていると感じる。 ・行事の一部を見学したが、個を生かしながら全体を仕上げていくことは大変だと思う。完成されたものを観ると、子どもも先生方も頑張ったことが伝わってくる。未来を担う子どもたちが健やかに成長することを願っている。 ・保育の安全が話題となる昨今、園の運営には苦労があると思う。 ・先生方は子ども一人ひとりに愛情を持ち、細やかな対応をしていると思う。今後も、今と変わらぬ熱意と愛情を持って子どもたちに接し、安心安全な教育・保育の提供を期待する。